

7 静態的安全性分析

1. 静態的分析

財務諸表分析において「収益性の分析」と並んで重視されるのが「財務安全性」の分析である。いくら収益性の高い企業であっても、資金調達及びその運用がうまくかみ合っていないと資金的ショート(不足)を起こし、黒字倒産することもある。

そこでこの資本調達の構成及びその運用状況並びに資産の流動性について、資産、負債及び資本の関係を分析することを「財務構造の分析」といい、貸借対照表の項目を中心に、ある一定時点のストック項目で分析がなされるので、ストック概念による静態的分析とも言われている。

- 短期的な支払能力の分析.....流動比率・当座比率
- 長期的な支払能力の分析.....固定比率・固定長期適合率
- 負債(財務)リスクの分析.....負債比率・自己資本比率

【目安になる数値：解法テクニック】

下記の数値を目安に、各指標が何であるかを推定することである。

指 標		目 安	
短期安全性	当座比率	100%以上	値が大きいほど
	流動比率	200%以上	安全性が高い
長期安全性	固定比率	100%以下	値が小さいほど
	固定長期適合率	50%以下	安全性が高い

試験問題では、指標の値が計算されているので、その値を目安に指標名を推定しないと時間が不足して気持ちが焦る。やみくもに計算してはダメである。

そこで、貸借対照表を次のように分解して、時計回り90°回転させて各指標を考えると、各指標の計算式になる。全て、等金額と考える。

